

「コンプライアンス遵守」をとことん貫き 持続可能な輸送サービスの提供を目指す

成田国際空港の至近に本社を構え、航空貨物輸送を中心に事業を展開している(株)ロジックスライン（沢田秀明社長）。「コンプライアンス遵守」を旗印に、安全輸送の実現に向けて懸命に取り組んでいる。

「物流の2024年問題」が目前に迫る中、同社ではこれまで取得してきた数多くの認証に裏打ちされた「輸送品質の高さ」を武器に、荷主との信頼関係を構築し、喫緊の課題となっているドライバーの労働時間削減に全力で取り組んでいく。



同社設立20周年を機に制作した、地元成田市を紹介するラッピングトラックを紹介する沢田社長

■自社の価値を高める多様な認証を取得 「社員ファースト」を掲げ離職者ゼロに挑戦

(株)ロジックスラインは、平成10年に沢田社長によって設立された、航空貨物の輸入配送や食品輸送を手がける運送会社である。

設立当初は成田市内のアパートを事務所として借り、トラック5台で事業を開始。その後、リーマン・ショックやコロナ禍に襲われたが、業況の厳しい中でも対外的な信用力を付けてきたこともあり、ここまで比較的順調に成長を遂げてきた。

同社が最も大事にしているのは、「コンプライアンスの遵守」である。そのきっかけとなったのが、平成16年に受けた労働基準監督署の監査であった。沢田社長は当時、事業を軌道に乗せることに全力を注いでおり、監査では成田空港内での荷待ちが原因による長時間労働など労務管理の不備を指摘された。

「現状のままでは、事業を続けることができなくなる」と考えた沢田社長は、企業体質を一新し、コンプライアンス重視を企業経営の根本に据えた。同社は19年、千葉県トラック協会に入会。その後、適正化事業指導員の通常巡回指導を受けた際に、指導員から安全性優良事業所（Gマーク）認定取得を勧められ、沢田社長は申請を決意。20年に同社はGマークを取得した。その後、28年には県内の運送事業者で初めてISO39001（道路交通安全マネジメントシステム）を取得したほか、グリーン経営認証（21年）や東京都貨物輸送評価制度3つ星認証（28年以降継続）、運転者職場環境良好度認証制度（働きやすい職場認証制度）1つ星認証（令和4年）などの認証を次々取得。今年3月には、「健康経営優良法人2023」に初めて認定された。

「当社では、コンプライアンス遵守という当社の姿勢を荷主等に広く知っていただくために、Gマーク取得以降多くの認証を取得してきました。こうした認証は、当社の価値を高めてくれるものです。今後も安全への取り組みを始め、環境や職場環境改善、健康づくりなど様々

な取り組みを徹底していきいたいと考えています」（沢田社長）

同社は、Gマーク取得を機に事故防止への取り組みを強化。Gマーク取得前の17年からデジタルタコグラフを導入していたが、20年にはドライブレコーダーの導入に踏み切った。ドラレコは、死角のしやすい大型トラックの周囲や運転室内、また荷室内の状況を監視することのできる6カメラタイプへの更新を加速させており、事故防止と同様に貨物事故の防止にも効果を発揮している。

同社における安全教育としては、毎月実施している「安全会議」と、毎年1回実施している「安全講習会」「安全推進大会」がある。

安全会議では、ドラレコで取得されたヒヤリハット映像をドライバーに見てもらい、「同様の事故を防ぐためにはどうしたらいいか」を従業員同士で議論させるようにしている。また、同社では大型車・4トン車・2トン車と乗務する車両ごとに1チーム5～6人程度の小集団を組んでおり、小集団ミーティングの中で出された意見をリーダーに発表してもらっている。

「安全教育の場では、ドライバーから自発的に意見を述べてもらうことを重要視しています。経営者としては、ドライバーからの意見を真摯に受け止め、可能なものは改善するように努めています。自分の意見が会社に聞き入れられることで、ドライバーの会社への信頼度が増すのです」（同）

安全講習会は全従業員を対象に、毎年5月30日（ごみゼロの日）に開催。まず、道路への感謝を示すために、従業員全員で会社周辺のゴミ拾いを実施。その後、消防署やトラックメーカーの担当者による講演や、外部講師による安全指導などを行い、事故防止への意識を高



沢田 秀明 代表取締役



Gマーク認定やISO39001、健康経営優良法人など、同社では様々な認証を取得している



ドライバーに人とのふれあいの温かさを感じてもらうため、対面点呼にも力を入れている



従業員の誕生日には、従業員への感謝の気持ちがこもった、沢田社長直筆のメッセージ入り色紙を手渡す

めている。

また、11月に開催している安全推進大会は、同社従業員のほか、関係する運送会社や荷主などを招いて開催。飲酒事故によって家族を失った遺族を招き、心に抱えている苦しみなどを語ってもらう。

「ご遺族の悲しみを聞くことで、当社のドライバーだけでなく、多くの方に事故防止の大切さを感じていただきたいと思います。コロナ禍の影響で、安全講習会はここ数年開催できていませんでしたが、今年はぜひ開催したいと考えています」(同)

さて、航空運送サービスは24時間365日休まず稼働しており、同社でも24時間体制を採っている。早朝や深夜に出発したり帰庫するドライバーも少なくないことから、同社では点呼にも力を入れている。同社では、本社営業所と成田空港営業所のほか、本社から20分ほど離れた場所に車庫を置いている。日中は、本社営業所と車庫間でIT点呼を実施しているが、夜間は車庫側にも運行管理者を配置し、対面点呼を行っている。

「長時間1人で乗務するドライバーにとっては、点呼を通じて人とのふれあいの温かさを感じてもらうことが大事であり、離職防止にも繋がると考えています。なお、出発前の点呼の際には、安全の心得をドライバーに宣言してもらい、事故防止への意識を高めています」(同)

法令遵守に舵を切り、安全性向上に磨きをかけている同社。近年では「社員ファースト」を掲げ、従業員満足度向上への取り組みも強化。特に今年は「離職者ゼロ」を目標に、多彩な離職防止対策に取り組んでいる。

同社では、「従業員にいつまでも元気で働き続けてもらうためには、家族の理解が欠かせない」と考え、5年ほど前から従業員の誕生日に社長直筆のメッセージ入り色紙を手渡したり、従業員の妻の誕生日には胡蝶蘭を贈るようにしている。また、従業員の子供には、入学祝

いやクリスマスプレゼントなども贈っている。さらに、社内報「夢連(ムーン)」を6年前から毎月発行。従業員同士のコミュニケーションツールとしてだけでなく、同社の取り組みを家族に知ってもらうことで、家族も同社に勤める夫や息子などを安心して会社を送り出すことができるのである。

同社では現在、就業規則や賃金規定の見直しを進めている。これも、「同社で働く従業員が安心して活躍できる環境整備」の一環であり、分かりやすい賃金規定に見直すことで従業員のモチベーションアップに繋がりたいとしている。

さて、同社は今年で設立25周年を迎える。1月の年頭式で沢田社長は、経営最高責任者としての責務を背負い、舵取りをしっかりと行い会社を存続させ、さらに利益を生み出す体制を維持しなければならないとして、「社長が1番変わらないといけない! 管理職および社員も変わらない」と自身の覚悟を示した上で、25周年に向けた同社のビジョンを高らかに掲げた。その中の筆頭項目として、「物流2024年問題の残業時間規制と改善基準告示に向けた体制」を挙げている。

「航空貨物輸送に携わるドライバーの労働時間削減に向けては、当社でもこれまで様々な取り組みを進めてきましたが、自社の取り組みだけではどうしても限界があります。令和6年4月を目前にした今、荷主とどのように向き合っていくかが大きな課題だと考えます。当社としては、コンプライアンス遵守という基本姿勢をとことん貫き、高品質な輸送サービスを提供し続けていきたいと考えています。同業他社にはない輸送品質の高さを武器に、荷主からの評価を獲得し、信頼関係を構築していくことこそ、長時間労働抑制に繋がる物流効率化に向けた荷主との交渉の近道になるのです」(同)

ホットにゆーす

■業界の仲間たちとの交流を深める アポなし訪問の「放浪の旅」

北海道から九州まで、全国各地に交流のある運送会社経営者の仲間がいる沢田社長。目下の楽しみは、年に1、2回車で行っている、仲間が経営する運送会社をアポなしで訪問する「放浪の旅」だという。

昨年のゴールデンウィークは10日間の旅程で、山形～秋田～岩手～青森の運送会社を訪問。また、業界の仲間とゴルフを楽しんだり、各地の名所旧跡を訪ねたりしたという。

「『放浪の旅』を通じて、訪問先の会社の取り組みを勉強させていただいたり、仲間たちと情報交換したりできるので、本当に楽しいです」(同)



昨年
の
ゴ
ー
ル
デ
ン
ウ
ィ
ー
ク
の
「
放
浪
の
旅
」
で
訪
問
し
た
、
津
軽
半
島
最
北
端
の
龍
飛
崎
で
記
念
撮
影

企業プロフィール 株式会社ロジックスライン

代表取締役 沢田 秀明
本社 千葉県成田市本三里塚 1001-501
従業員 50人(うちドライバー34人)
台数 38台